

木村駒子 きくらこ 舞踊家。明治二十年七月二十九日熊本縣生れ。昭和五十五年七月十日没（八八七一九八〇）。本名駒。筆名こま子、黒瀬こま子。黒瀬與作の長女、のち木村萬作の養女となり、養父の甥木村長雄と同棲。明治二十八年熊本女學校卒業後福岡英和女學校に入り、更に青山女學院英文専門科へ轉ずるも中退。その後新聞『熊本評論』の「革命劇と創始者」（明治四十年十一月五日第十號）等々執筆。四十四年帝國劇場附屬演技藝學校に入るも翌年退き、淺草女優として活躍。大正二年（西川文子、宮崎光子等と新眞婦人會を結成、機關誌『新眞婦人』を創刊した。六年夫と息子のうちの繚纏家木村生三しやんじ）と共にアメリカに渡り、カーネギー・ホールに出演するのを（舞踊家として活躍。この間世界周遊途上の徳留葦花夫妻と親交。十四年歸國、昭和五年京都藝術大學で劇技として社団法人、日本舞踊を教授。戦時中渡満して新京都、戦後は東京で舞踊教授。

著書に『新らじおの女の行く道』（西川文子・宮崎光子合著、大正二年四月）『十五の洛陽堂』（『舞踊藝術教程』（昭和十一年）二月）『平舞藝社』等。駒子研究書に、石原通子著『熊本評論』の女』（平成元年七月十五日家族史研究会『女性史双書』）がある。

